



私のタイ研修は、まだ終わっていない！

山藤 希葉

タイでの4日目、現地の学生さん達と一緒にクレット島という場所を散策した。クレット島へは、渡し船に乗って約3分。その短い時間を、私は忘れられない。船に、私と同じ年くらいの男の子が乗っていた。乗客かなと思ったけれど、操縦士さんと同じ洋服で乗り降りの際にロープを結ぶ作業をしていたので、スタッフのようだ。手慣れた様子で素早く仕事をこなしていた。その日は平日。「今日は学校には行っていないの？」なんで私はこの質問ができなかったんだろう。帰国して時間が経った今も、すごくモヤモヤしている。聞けなかった理由は、自分でも本当は分かっている。英語が咄嗟に出てこなかったこと。そして、もう一つ。答えを聞くのが怖かったこと。もし彼の答えが「働かなくちゃいけない。」「学校には行けない。」というようなものだったら、教育を等しく受けることができていない事実を、この目で見るのが怖かったのだ。帰国後に調べたら、船の運賃は片道4バーツ＝約12円。往復で一人約24円だ。お客さんは一日何人くらいなのかな。彼はどのような暮らしをしているのかな。疑問は募るばかりだ。知識としては知っていた教育格差の「現状」は、現地に足を運べたからこそ私が初めて体感できた問題だ。今だったら彼に尋ねてみたいことがたくさんある。だからって今すぐまたタイに行って彼に話しかけることはできない。だから、まずはあの時咄嗟に出てこなかった質問を言えるように英語を勉強することが、今の私にできる最初の一步のような気がする。私のタイ研修はまだ終わっていない。私はスタートラインに立ったばかりなのだ。